



2012年3月期

決算説明会

2012年5月17日

目次

I. 2012年3月期決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2013年3月期事業計画

1. 2013年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

I-1. 2012年3月期決算の概要

経営環境

東日本大震災の影響により、一時的に生産活動や個人消費が大きく落ち込んだが、夏場以降、復旧・復興が進むにつれて緩やかに持ち直しの動きがみられた。世界経済においては、欧州発債務危機やタイにおける大規模洪水など厳しい環境が続いたが、一方アジア地域の景気は引き続き拡大傾向であった。

業績の概要

国内事業において上期は東日本大震災の影響により売上、利益ともに伸び悩んだが、下期には新車メーカー増産に伴う電池販売が拡大、産業電池電源は復旧需要により拡大した。海外事業ではアジアを中心に販売数量が増加した。また、リチウムイオン電池事業は量産販売が本格化してきたことにより売上高は拡大した。その結果、売上高、経常利益、純利益ともに昨年を上回る結果となった。

I-1. 2012年3月期決算の概要

(億円)

	2010年度	2011年度	増減
売上高	2,725	2,854	+129
営業利益	176	160	-16
営業利益率	6.5%	5.6%	-0.9p
経常利益	175	180	+5
税前利益	143	163	+20
純利益	117	117	±0
ROE	11.2%	10.5%	-0.7p
配当	8円 / 株	8円 / 株	±0円 / 株

I-1. 2012年3月期決算の概要

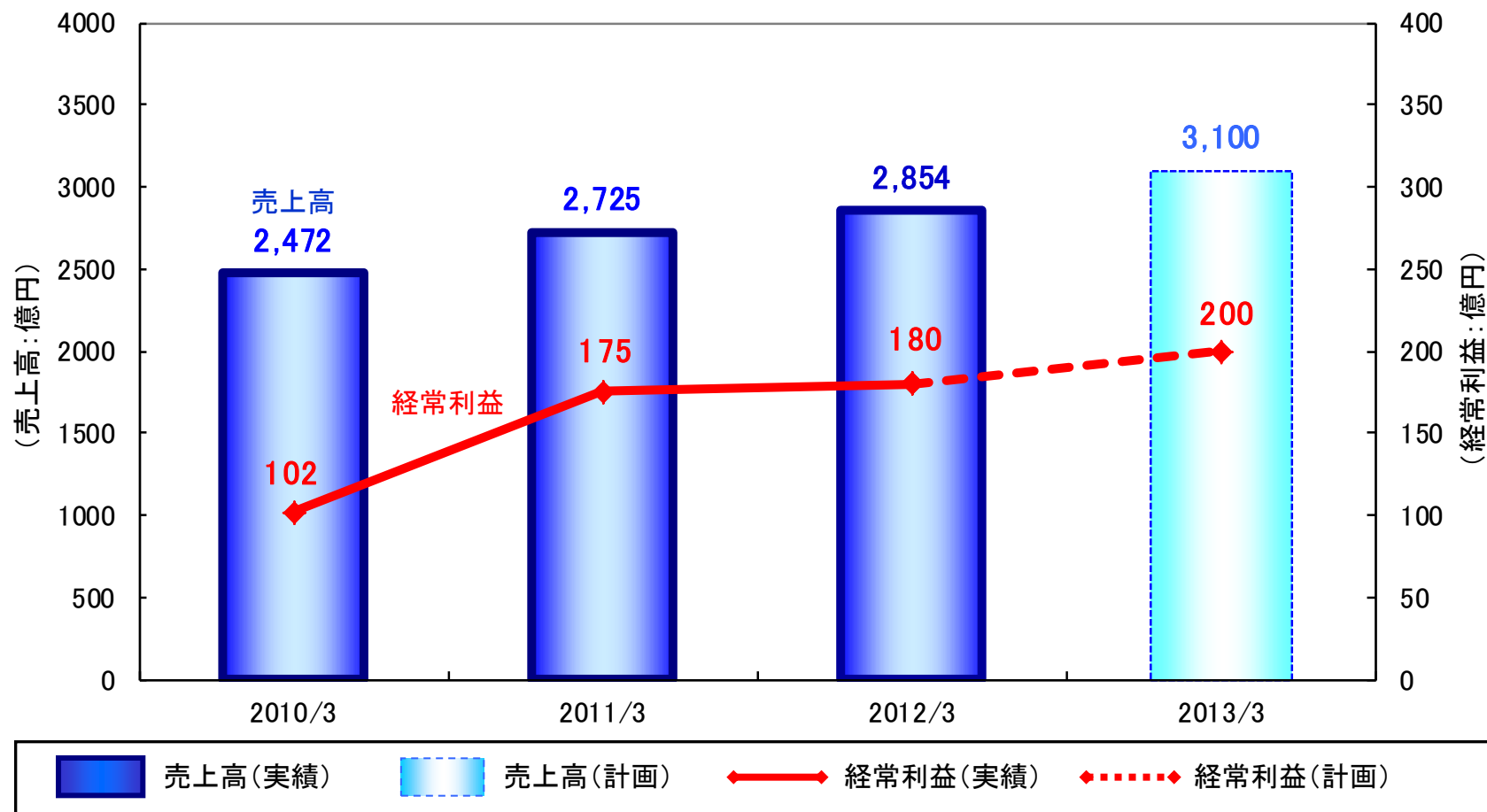
経常利益・当期利益

(億円)

	2010年度	2011年度	増減	主な増減要因
経常利益	175	180	+5	①数量の増加 +22 ②鉛価格・売価変化 -2 ③人件費・費用増等 -36 ④減価償却費の増加 -10 ⑤持分法投資利益の増加 +6 ⑥為替差損の減少 +15 ⑦その他 +10
純利益	117	117	±0	⑧国庫補助金受贈益 +49 ⑨固定資産圧縮損 -49

I-1. 2012年3月期決算の概要

実績と計画



目次

I. 2012年3月期決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2013年3月期事業計画

1. 2013年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

1-2. セグメント別業績

セグメント別業績

(億円)

	2010年度		2011年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
国内自動車電池	589	48	588	43	-1	-5
国内産業電池電源	659	84	685	96	+26	+12
海外	1,182	86	1,209	60	+27	-26
リチウムイオン電池	120	-13	210	-33	+90	-20
その他	175	-29	162	-6	-13	+23
合計	2,725	176	2,854	160	+129	-16

1-2. セグメント別業績

セグメント別増減益要因

(億円)

	営業利益増減 (11-10年度)	増減益の主な要因			
		増益要因		減益要因	
国内自動車電池	-5	—————	—	<ul style="list-style-type: none"> • 販売構成変化 -1 • 経費等その他 -4 	
国内産業電池電源	+12	<ul style="list-style-type: none"> • 数量の増加 +20 • 合理化等 +3 		<ul style="list-style-type: none"> • 鉛価格、売価変化 -11 	
海外	-26	<ul style="list-style-type: none"> • 数量の増加 +3 • 鉛価格、売価変化 +10 		<ul style="list-style-type: none"> • 人件費及び増産による費用増等 -36 • 為替換算 -2 	
リチウムイオン電池	-20	<ul style="list-style-type: none"> • 減価償却費の増加 • リチウムイオン電池の研究開発費を2011年度から本セグメントに計上 			

1-2. セグメント別業績



国内自動車電池事業

(億円)

	2010年度	2011年度	増減 (11-10年度)
売上高	589	588	-1
営業利益	48	43	-5
利益率	8.1%	7.3%	-0.8p

<2011年度 商況>

- 東日本大震災の影響により上期は減少したが、下期には新車生産拡大に伴い大幅に回復し、昨年度と同レベルの売上高を確保
- アイドリングストップ車、ハイブリッド車用鉛蓄電池の販売好調

1-2. セグメント別業績



国内産業電池電源事業

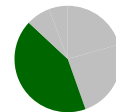
(億円)

	2010年度	2011年度	増減 (11-10年度)
売上高	659	685	+26
営業利益	84	96	+12
利益率	12.7%	14.0%	+1.3p

<2011年度 商況>

- 東日本大震災の復旧需要により産業用電池の売上高は堅調に推移
- フォークリフト用電池売上高拡大
- データセンター向け据置電池の販売好調

1-2. セグメント別業績



海外事業

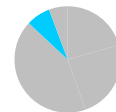
(億円)

	2010年度	2011年度	増減 (11-10年度)
売上高	1,182	1,209	+27
営業利益	86	60	-26
利益率	7.3%	5.0%	-2.3p

<2011年度 商況>

- アジアでの自動車電池・オートバイ用電池販売は順調に推移
- 世界景気停滞によりバックアップ用電池需要は伸び悩んだものの、フォークリフト用電池は増産により売上高拡大
- 人件費高騰や増産による経費が大幅に増加

1-2. セグメント別業績



リチウムイオン電池

(億円)

	2010年度	2011年度	増減 (11-10年度)
売上高	120	210	+90
営業利益	-13	-33	-20
利益率	-10.8%	-15.7%	-4.9p
減価償却費	23	40	+17

<2011年度 商況>

- 東日本大震災ならびにタイの大規模洪水の影響により三菱自動車およびホンダの生産が停滞したが、下期には回復に向かった
- リチウムエナジー ジャパン栗東工場(1期)は2012年3月から量産出荷開始

目次

I. 2012年3月期決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2013年3月期事業計画

1. 2013年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

I-3. 貸借対照表・キャッシュフロー

貸借対照表

(億円)

	2011/3末	2012/3末	増減額		2011/3末	2012/3末	増減額
流動資産	1,281	1,367	+86	負債	1,251	1,422	+171
<ul style="list-style-type: none"> ・ 売掛債権 ・ 有価証券 ・ 棚卸資産 ・ 経済産業省からの補助金(未収入金) 			+50 -70 +25 +49	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備関係債務 LEJ栗東工場設備投資による増加 ・ リース債務(栗東工場建屋) ・ 有利子負債 			+59 +50 +78
固定資産	1,193	1,417	+224	純資産	1,223	1,362	+139
<ul style="list-style-type: none"> ・ 有形固定資産 LEJ※¹栗東工場設備投資による増加 BEC※²増産ライン設備投資による増加 ・ 経済産業省からの補助金による固定資産の圧縮 			+260 -49	<ul style="list-style-type: none"> ・ 純利益および株主配当 ・ 為替換算調整勘定 ・ 少数株主持分 LEJ、BECの増資によるパートナーからの出資金等 			+84 -25 +71
総資産	2,474	2,784	+310	負債・純資産	2,474	2,784	+310

※1: 株式会社 リチウムエナジー ジャパン
 ※2: 株式会社ブルーエナジー

I-3. 貸借対照表・キャッシュフロー

キャッシュフロー

(億円)

営業C/F	+83	投資C/F	-287	財務C/F	+132
・ 償却前利益	+279	・ 主としてLEJ栗東工場 への設備投資		・ LEJが日本政策投資 銀行から融資を受ける (100億円)	・ 増資に伴うパートナー からの出資
・ 運転資本	-62				
・ 税金等の支払	-82				
・ その他	-52				

ポイント

- ・ 営業C/Fと投資C/Fの和はマイナス204億円となったが、日本政策投資銀行からの融資100億円と増資に伴うパートナーからの出資93億円、ならびに手元資金で賄った

目次

I. 2012年3月期決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2013年3月期事業計画

1. 2013年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

II-1. 2013年3月期 事業計画

経営環境

国内では原発再稼働に関する対応如何では夏場の電力需給問題などの懸念があるものの、震災復興など景気の増勢を強める要因もある。一方、世界経済においては中国の成長率が鈍化し、米国も量的緩和策による景気下支えや失業率の改善が見られるものの力強さが伴わず、欧州不安の継続など、依然として不透明な状況が続いている。

基本方針

当社グループにおいては、このような環境の下、中国・アジアを中心に海外事業の拡大および国内既存事業の収益基盤の強化、リチウムイオン電池事業の基礎固めに引き続き取り組む。

II-1. 2013年3月期 事業計画

(億円)

	2011年度 実績	2012年度 計画	増減
売上高	2,854	3,100	+246
営業利益	160	180	+20
経常利益	180	200	+20
純利益	117	130	+13
配当	8円/株	8円/株	±0円/株
2012年度前提条件	(鉛価格) 国内建値:21万円/t LME:\$2,200/t (為替レート) 77円/\$		

II-1. 2013年3月期 事業計画

セグメント別計画

(億円)

	2011年度		2012年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
国内自動車電池	588	43	600	50	+12	+7
国内産業電池電源	685	96	730	100	+45	+4
海外	1,209	60	1,270	80	+61	+20
リチウムイオン電池	210	-33	320	-40	+110	-7
その他	162	-6	180	-10	+18	-4
合計	2,854	160	3,100	180	+246	+20

II-1. 2013年3月期 事業計画

設備投資額・減価償却費

(億円)

	2010年度	2011年度	2012年度
リチウムイオン電池事業	110	305	300
海外事業	38	34	50
その他	52	49	50
設備投資額 合計	200	388	400

経済産業省からの補助金による圧縮記帳後の設備投資額:339億円
(補助金による圧縮記帳額:49億円)

減価償却費	102	112	150
内 リチウムイオン電池事業	23	40	80

目次

I. 2012年3月期決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2013年3月期事業計画

1. 2013年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

11-2. セグメント別事業課題



国内自動車電池事業

■ アイドリングストップ車用鉛蓄電池 採用車種拡大

2011年度から採用車種が拡大
計12車種

(2012年4月末現在)

トヨタ	ホンダ	スズキ	ダイハツ	マツダ
3車種	2車種	4車種	2車種	1車種

2012年度以降も車種拡大



マツダ CX-5

■ アイドリングストップ車用鉛蓄電池 補修用需要拡大

- ・ 納入後3~4年、補修用蓄電池需要が拡大
—— ラインアップを充実、販売拡大を狙う



Honda N BOX



スズキ アルト エコ



アイドリングストップ車 補修用鉛蓄電池
「ECO. R IS」



国内自動車電池事業

■ ハイブリッドカーの補機用鉛蓄電池の拡大

- ・ 人気車種への採用獲得による販売数量の増加



補機用鉛蓄電池 累計出荷個数: 270万個以上

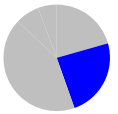
(1997年～2011年12月末日 当社出荷実績)



補機用鉛蓄電池



トヨタ自動車「アクア」



国内産業電池電源事業

■ 3.11以降 日本の電力事情が変化した影響

国の蓄電池戦略(出所:経済産業省 新産業・新市場の創出に向けて)

- 再生可能エネルギーの導入拡大に伴う、電力産業への大型蓄電池の開発・導入
 - 停電バックアップ対策としての定置用蓄電池の普及
 - 車載用蓄電池の開発・競争力強化
- ピークシフトにEV・PHEVを有効活用

■ 経済産業省が定置用リチウムイオン電池の補助金^{※1}を決定

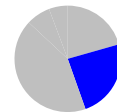
※1:平成23年度定置用リチウムイオン蓄電池導入促進対策事業費補助金

予算額:200億円 (補助率1/3 → 創出市場規模は600億円)

110MWh級の需要が創出されると予測

(一般家庭11,000世帯超の電力を1日供給できる電力量に相当)

11-2. セグメント別事業課題



国内産業電池電源事業

■ これからの電力網における当社製品の役割

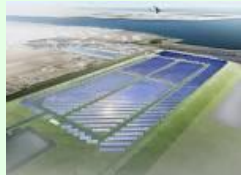
ピークシフト、余剰電力の貯蔵、負荷平準化、急速充電

再生可能エネルギー



風力発電所

蓄電池



太陽光発電所

蓄電池



LRT
電池電車等

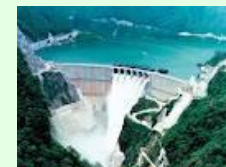
従来型発電所



原子力発電所



火力発電所



水力発電所

送配電網

ITによる制御



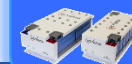
コンビニ等店舗

蓄電池



ビル

蓄電池



工場

蓄電池



EV

EV用
急速充電器



蓄電池

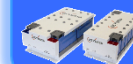


EV



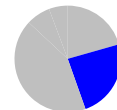
エコ住宅

蓄電池



エコマンション

II-2. セグメント別事業課題



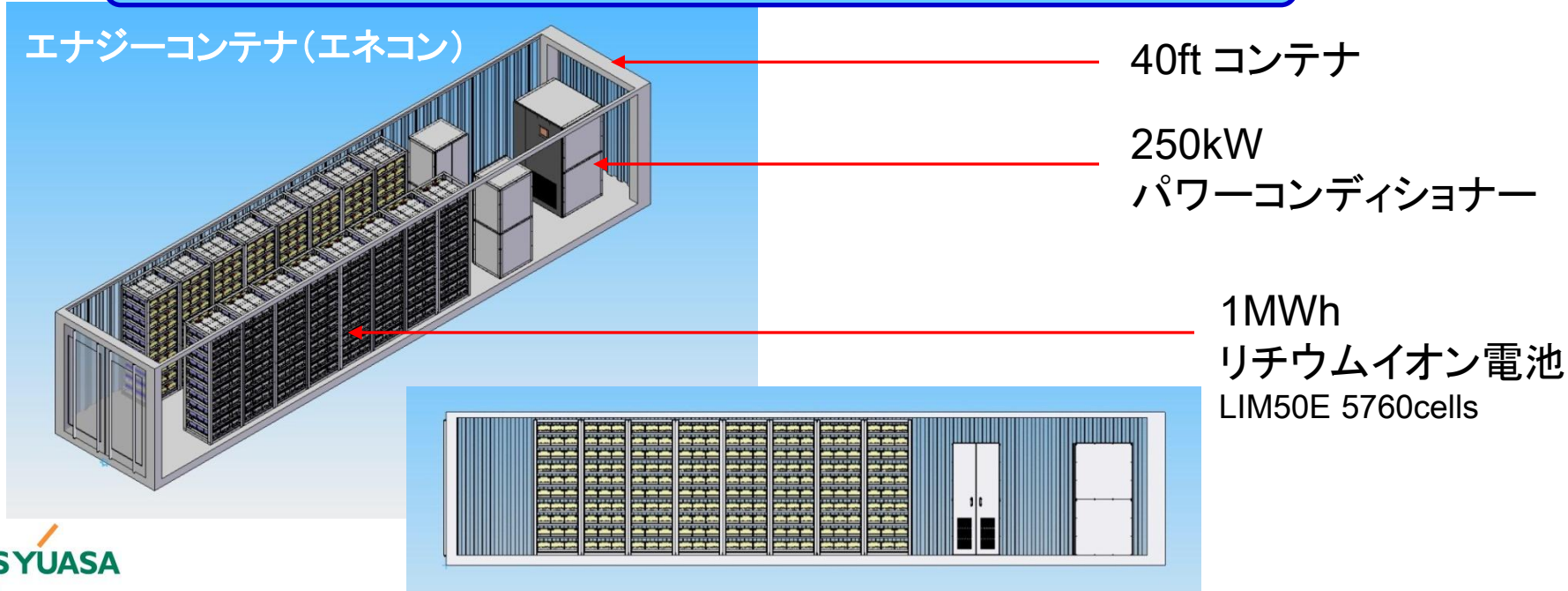
国内産業電池電源事業

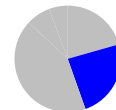
■ これからの電力網におけるGSユアサ製品の役割

ピークシフト、電力貯蔵、負荷平準化、バックアップなど

例) 40フィートコンテナに1MWhのリチウムイオン電池、
250kW出力のシステムを準備可能

一般家庭100世帯超の電力を1日供給できる電池を搭載





国内産業電池電源事業

■7月に始まる再生可能エネルギー全量買い取り制度によるビジネスチャンス

- 飛躍的に拡大する太陽光発電用パワーコンディショナー需要の取り込み

＜経済産業省の調達価格等算定委員会 2012年4月25日に提示された買取価格案＞

電源	区分	価格(税込)	期間
太陽光	10kW以上	42円/kWh	20年
	10kW未満	42円/kWh	10年

- 当社が狙う非住宅用のパワーコンディショナー総需要は大幅拡大の予測

2012年度は1000MW弱と2011年度の約5倍に拡大※

※出所:太陽光発電協会の数値等より当社推定

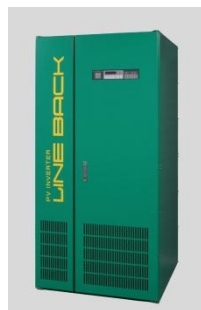
■ 小容量～メガソーラーまで豊富なラインアップで顧客要求に対応



4.5kW出力



10kW出力

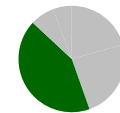


100kW出力



250kW出力

II-2. セグメント別事業課題



海外事業

■ 成長著しいこれらの国で生産・販売数量を増強

(単位)

実質GDP : 億US\$
自動車生産台数 : 千台
当社自動車電池販売数量 : 千個



India

	2008	2011	2014
実質GDP	10,439	13,223 (+27%)	16,660 (+26%)
自動車 生産台数	2,332	3,940	5,125
当社自動車 電池販売数量	340	660	1,200~ 1,400



China

	2008	2011	2014
実質GDP	31,833	41,948 (+32%)	53,336 (+27%)
自動車 生産台数	9,299	18,419	23,085
当社自動車 電池販売数量	2,800	4,600	8,000~ 9,000



Thailand

	2008	2011	2014
実質GDP	1,995	2,118 (+6%)	2,435 (+15%)
自動車 生産台数	1,393	1,458	2,449
当社自動車 電池販売数量	2,500	3,100	5,500~ 6,000



Indonesia

	2008	2011	2014
実質GDP	3,400	4,022 (+18%)	4,822 (+20%)
自動車 生産台数	600	838	1,099
当社自動車 電池販売数量	3,600	4,700	5,500~ 6,000

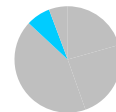


Vietnam

	2008	2011	2014
実質GDP	660	786 (+19%)	950 (+21%)
自動車 生産台数	66	80	117
当社自動車 電池販売数量	230	370	500~ 600

出所: 日本自動車工業会およびJETRO等

II-2. セグメント別事業課題



リチウムイオン電池

■ 栗東工場第2期 着工

面積	46,000㎡
着工	2011年12月
出荷開始	2013年春
最大生産能力	約1200MWh/年
設備投資額	300億円



栗東工場完成予想図

■ 世界で戦える体制を強化

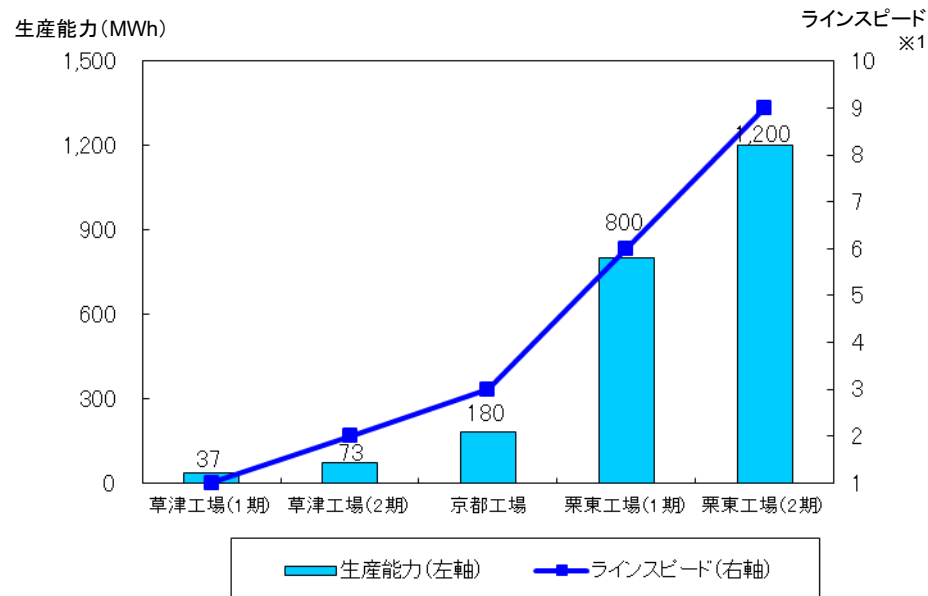
＜生産の効率化＞

- ・ラインスピードを大幅向上

栗東工場(2期)は草津工場(1期)比9倍

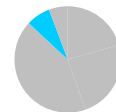
＜投資効率の向上＞

- ・投資に対する生産能力が飛躍的に向上



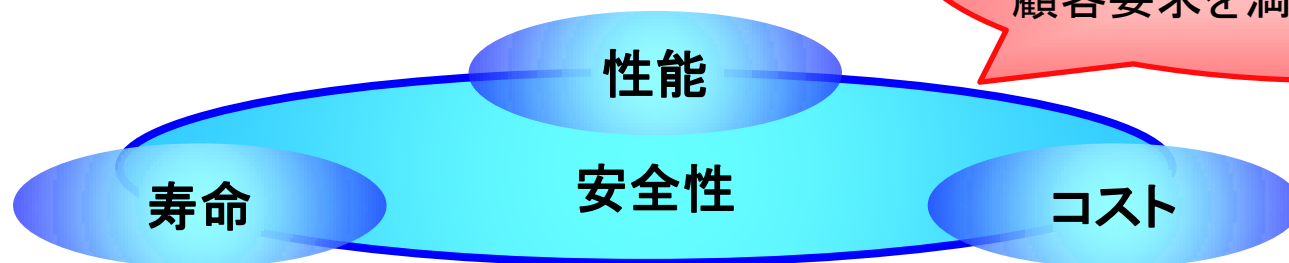
※1: ラインスピードは草津工場を1としたときの倍数

II-2. セグメント別事業課題



リチウムイオン電池

■ 競争に勝ち抜くための要素

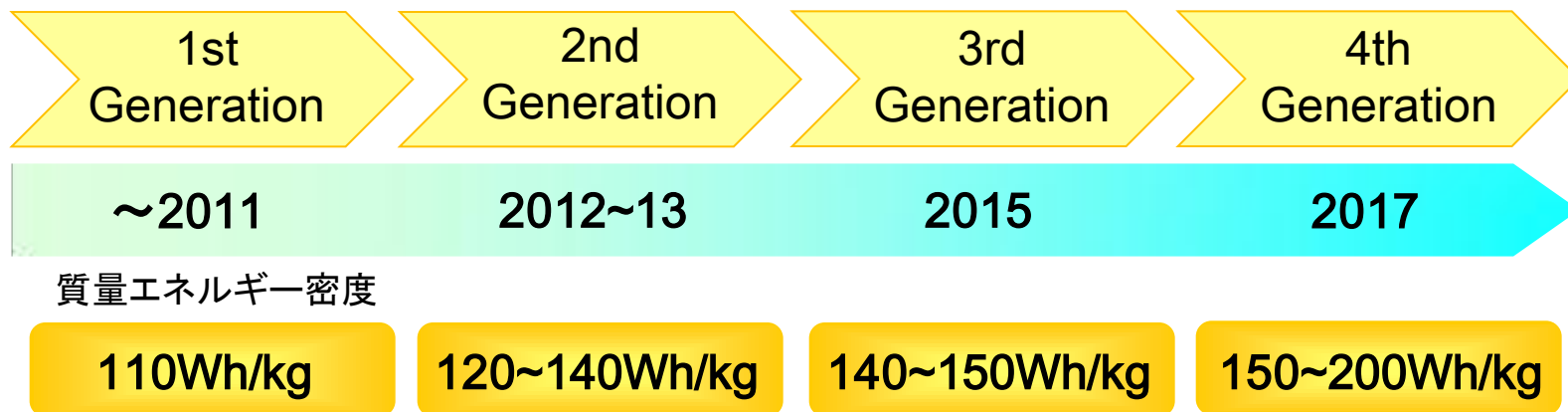


当社の優位性

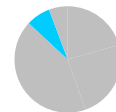
これらのバランスを維持しながら
顧客要求を満足させる能力の高さ

■ 大型リチウムイオン電池の高性能化

競争優位性をさらに強化する、先端製品開発ロードマップ



II-2. セグメント別事業課題



リチウムイオン電池

■ 主なQ&A

Question ① EV関係のニュースが少なくなっているが、GSユアサのリチウムイオン電池事業の取り組みやスタンスに変化はあるのか？

Answer 取り組みやスタンスに変化はなく、当社における成長事業としての位置づけに変更ありません。今後もメーカー間の連携、顧客との関係も大きく変化していくと想定しており、その中で当社は研究開発能力の高さやいち早く量産したことにより蓄積したノウハウを背景に強いポジションを維持継続できると考えております。

Question ② リチウムイオン電池事業の黒字化は2013年度から変更ないか？

Answer 新規顧客、新規車種の拡大が予定されているため、2013年度のブレークイーブンに変更はありません。

Question ③ 栗東工場が稼働したことにより、草津・京都工場は今後どのような役割を担うのか？

Answer 栗東をメイン工場と位置付け、草津・京都はサンプル生産等フレキシブルに対応し、将来的には非車載用への転換も考慮しています。また、栗東1期は能力いっぱいまで設備設置しますが、2期の生産稼働は受注状況を勘案しながら判断します。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室

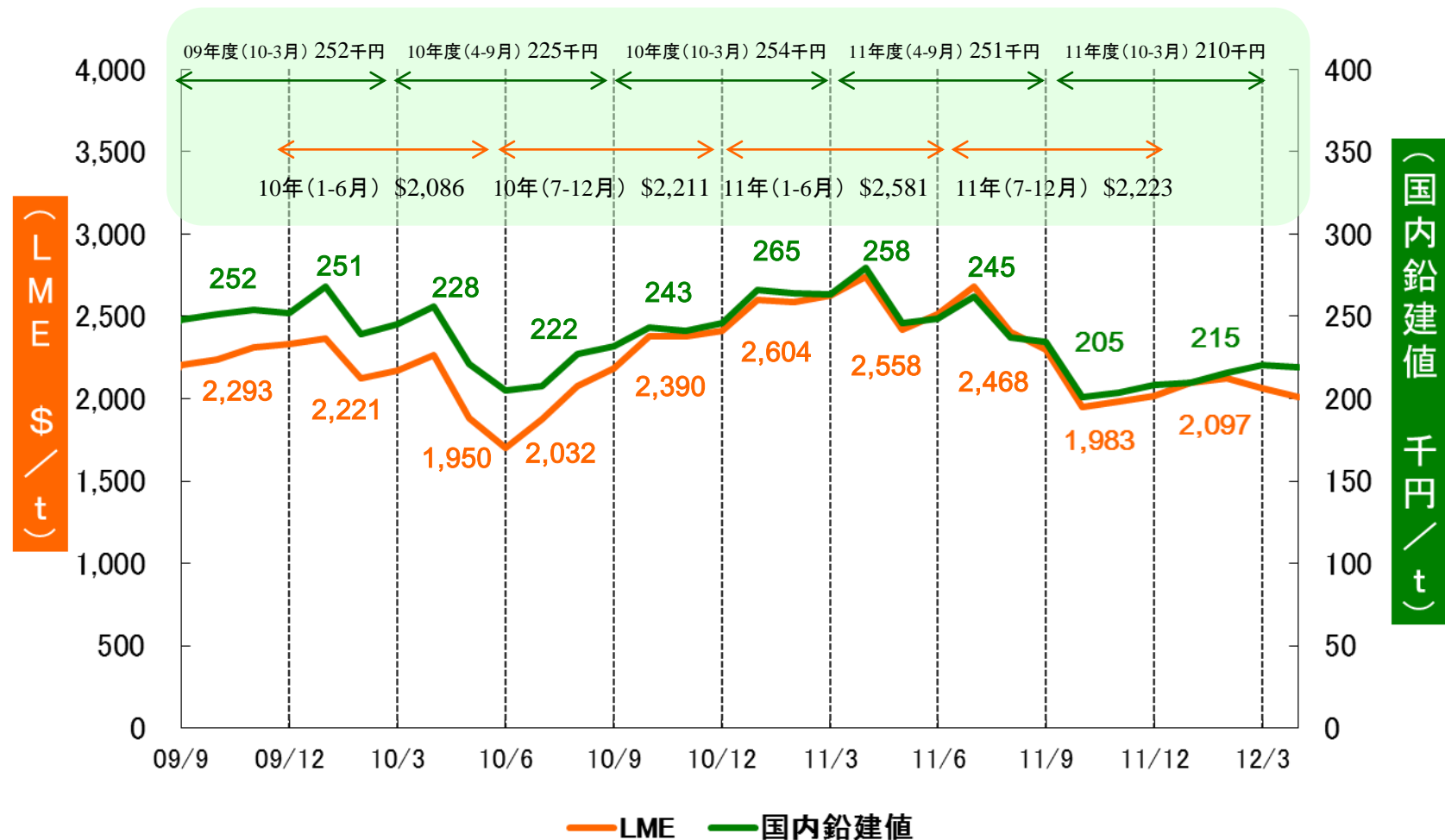
中野 宏治 ・ 山本 靖志

Tel : 075-312-1214

<http://www.gs-yuasa.com/jp>

参考資料

原材料価格の推移・前提条件



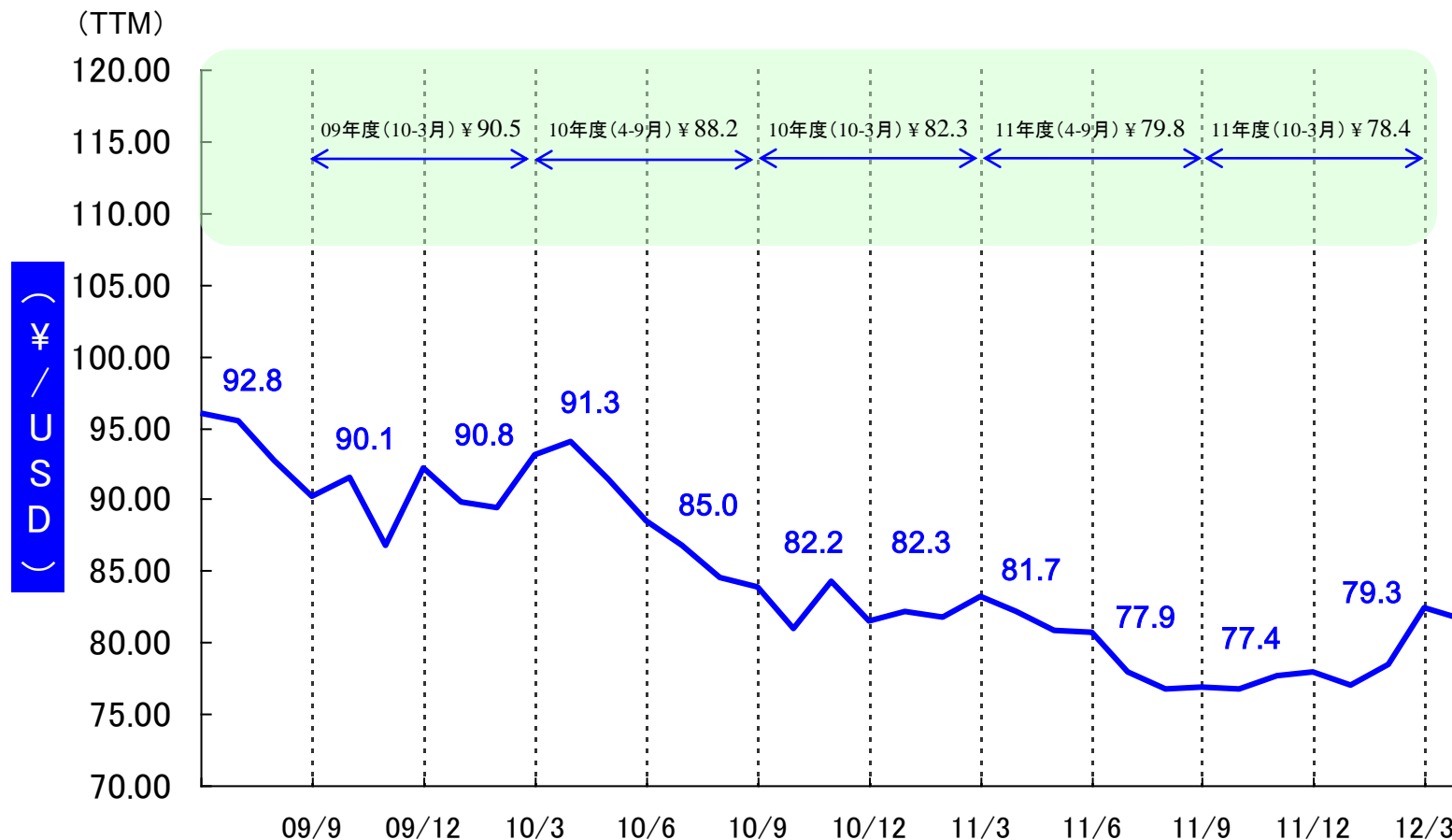
12年度前提条件

LME \$2,200/t
国内鉛建値 210千円/t

足元情報(5月8日現在)
LME \$2,078 国内鉛建値219千円

参考資料

為替レート推移・前提条件



12年度前提条件

80円/\$ (TTM)

足元情報(5月8日現在)
80円02銭/\$ (TTM)

参考資料

リチウムイオン電池 生産拠点



京都工場
(GSユアサ本社内)

工場稼動 2010年12月
生産能力 180MWh/年



草津工場

工場稼動 2009年6月
生産能力 110MWh/年



栗東工場1期



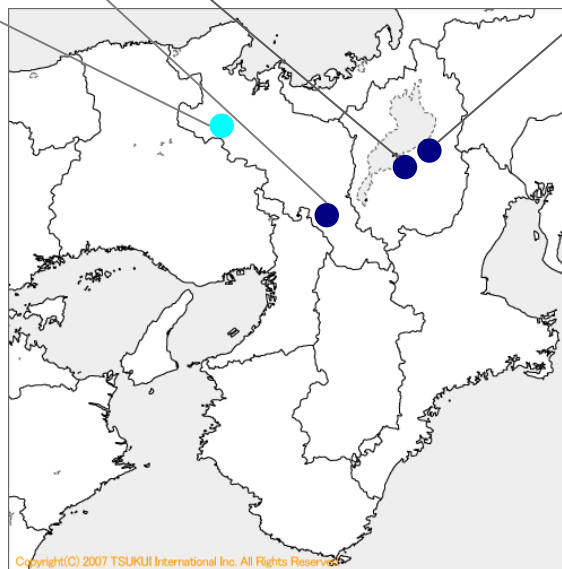
栗東工場2期
栗東工場

工場稼動 1期 : 2012年2月
2期 : 2013年春
生産能力 2000MWh/年



Blue Energy 長田野事業所

工場稼動 2011年2月
生産能力 200MWh/年



- 株式会社 リチウムエナジー ジャパン 生産拠点
- 株式会社 ブルーエナジー 生産拠点